

4 8月15日

ポツダム宣言受諾^{じゅだく}がすでに内密には決定されていたこの日、正午の玉音放送に先立つ早朝8時30分、陸軍省軍事課は「特殊研究処理要領」を通達、登戸研究所は全ての証拠を隠滅することを命じられます。

登戸研究所の関係者は8月15日をどのように迎え、過ごしたのでしょうか。その記録や証言を見てみましょう。(敬称略)

◆第二科第一班長 伴繁雄^{ばんしげお} [疎開先の長野県伊那村分工場から上京中]

「通常の連絡業務として参謀本部兵器出張となっていたが、その目的は知らされていなかった。正午過ぎ、科学研究所内の分室で一科長の草場少将と偶然出会い、ともに玉音放送を聞いた。草場科長は午前中に参謀本部へ立ち寄っていたので、何らかの指示を受けていたような感じだった。放送を聞き終わると草場科長は再び参謀本部へ向かった。筆者[伴繁雄氏]は、用件をそこそこに翌十六日夜伊那に帰着した。」

(『伴繁雄手記』より)

◆庶務科(本部)女性勤務員 [登戸研究所本部疎開先の長野県宮田村にて]

「玉音放送の前日に、明日は大切な放送があるから聞くように、と言われた。(中略)何を言っているかは解らなかったけど、上の人に負けたってことを教えてもらった。」

(資料館聞き取り調査より)

◆庶務科女性タイピスト [残留していた登戸にて]

「桜の木の下で玉音放送を聞いていたら、[落ちてくる]毛虫の事が気になった。何人ぐらいで聞いたかは忘れちゃったけれど、みんな疎開してしまったから少なかったと思う。」(資料館聞き取り調査より)

◆第四科第一班男性工員 [登戸研究所第四科疎開先の兵庫県小川村にて]

「小川村は山の中のため、玉音放送が聞こえなかった。天皇にがんばれといわれたと思った。」(資料館聞き取り調査より)

◆風船爆弾に動員された高崎高女の女学生たち

[風船爆弾製造が3月に終了した後、岩鼻火薬製造所などに動員されていた]

「8月15日は、動員先から学校へ戻れと言われ、和紙貼り合わせに使った作業台などを泣きながら校庭で燃やした。」(資料館聞き取り調査より)



漁待つ人々 佐藤耕寛

資料館所蔵

173cm × 227cm, 日本画。
旧登戸研究所本館内の将校食堂に飾られていたと思われる。元研究所雇員の「大きな、漁師の奥さん達の絵が将校食堂にあった」との証言があるものの、これが研究所の食堂に飾られることとなった経緯は不明。登戸研究所本館として使用されていた建物を1990年代まで使用していた本学の就職課が長らく保管していた。



佐藤耕寛
(1902生～1975没)
雅号は耕寛、耕然荘。
宮城県出身。
池田勝方、荒井寛方、壺山南風の門下で日本美術院院友。

(上) 作品左下の落款の拡大
(左) 裏面に貼付された作品および作者名

5 登戸研究所の証拠隠滅作業

8月15日、特殊研究処理要領が下達された登戸研究所では、各地の疎開先を含め、約2週間、証拠隠滅作業を行いました。所員、雇員だけでなく、国民学校の学徒も動員されて作業が進められました。器材・書類などを燃やしたため、研究所の周辺は煙が蔓延していました。証拠隠滅作業の後、年内のGHQによる接收を経て、残務処理は翌1946（昭和21）年初頭まで続きました。

—1945年8月15日直後から始まった証拠隠滅作業

登戸に残った者も、疎開先で関わった者も、共通しているのは「穴を掘って[登戸研究所の証拠となる書類や器材を]燃やして埋めた」という証言です。登戸研究所の疎開先として最も規模の大きい「中沢製造所[分室]」があった長野県駒ヶ根市の中沢小学校では、敗戦直後に燃やして埋められた研究器材の燃え残りと思われるガラス片や焦げたレンガ様のものが、最近まで大量に発掘されていました。



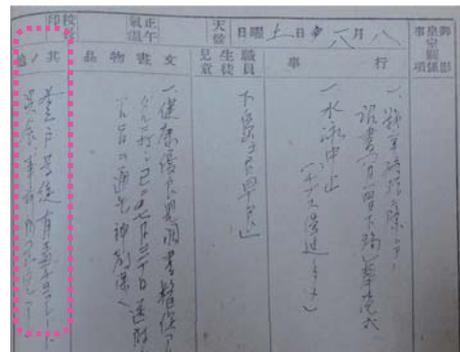
(上) 中沢小学校の校庭。右奥に校舎が見える。登戸研究所の使用器材の燃え残り（瓦礫）が大量に発掘されていた。資料館が寄贈を受けたのは、写真中央右寄りの取水橋の周辺から2014年7月に採取されたもの。

(左) 採取された時の状態で撮影された中沢小学校校庭の瓦礫。熱で溶けた試験管や薬品瓶と思われるガラス片、レンガ様の物質などが確認できる。

(写真は共に資料館撮影)

毒入りチョコレート誤食事故

同じく登戸研究所の疎開先、伊那村分工場として使用されていた伊那村国民学校（現・駒ヶ根市立東伊那小学校）では、8月18日、証拠隠滅作業中に、校内で見つけた毒入りチョコレートを動員された学徒に誤って与えるという事故が起きました。将校の判断で、胃を洗浄するなどの処置により、幸い学徒は無事だったようです。伊那村分工場に動員予定であったある人物は、「[敗戦間際に同所に出向き]毒入りチョコレート製造の任務を遂行する予定だったが、駅に着いた途



伊那国民学校の昭和20年8月18日の学校日誌。その他の項目に「登戸学徒有毒チョコレート誤食、事前処置[事後処置の書き添いか]完了」と記載されている(点線枠内)。(駒ヶ根市立東伊那小学校提供)

端、敗戦になりとんぼ返りした」と証言をしていることから、毒入りチョコレートは疎開先で計画的に製造されていた事が分かります。これらは米軍の上陸に備え、後方攪乱のための兵器として準備されたとも言われています。

「偽札」の行方

登戸に残留した第三科の偽札の印刷部門は、敗戦直後から、大きな印刷機は谷に埋めるか大手印刷会社へ払い下げ、残っていた偽札は燃やして多摩川に流し、証拠隠滅を図りました。しかし、多摩川の水量が十分でなく、堰の蛇籠[小石が詰められた竹籠]にかかった灰からお札であることが分かってしまうため、「夜中に相模湾から海に流すことにした」という証言（元第三科勤務員正地次男氏）も残っています。



現在の多摩川の川崎市多摩区宿河原付近の堰。多摩川では偽札の灰を流しただけでなく、爆弾の爆破処理も行った。(資料館撮影)

また、偽札の切れ端や製紙原料は証拠隠滅せず、登戸研究所の分室（現・ダイエー向ヶ丘遊園店）へ保管し、その後同所に設立された山田紙業へ払い下げました。紙不足かつパルプ調達も困難だった戦後日本の状況下で、上質な紙幣原料・紙を入手できたことは同社にとって大きな成果でした。



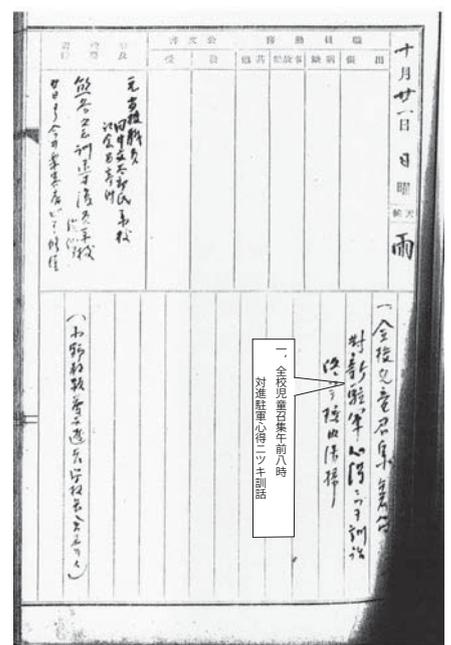
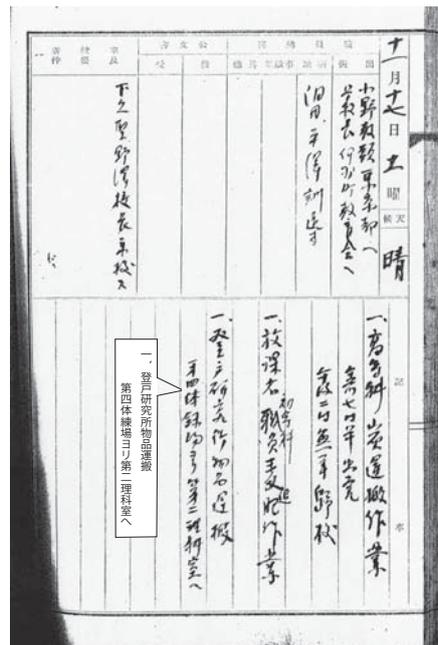
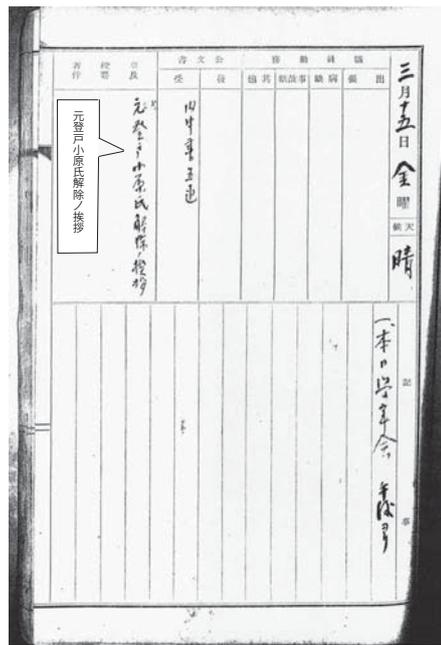
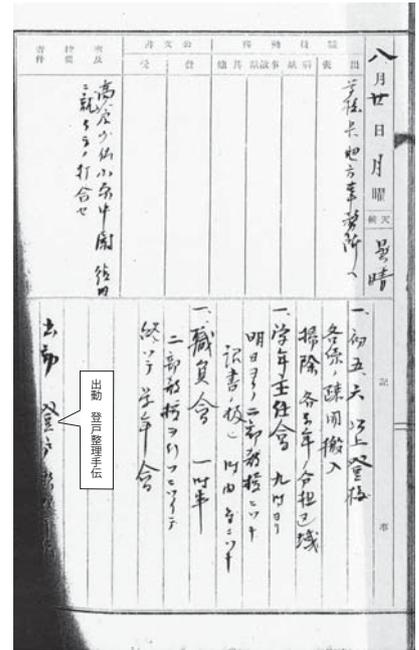
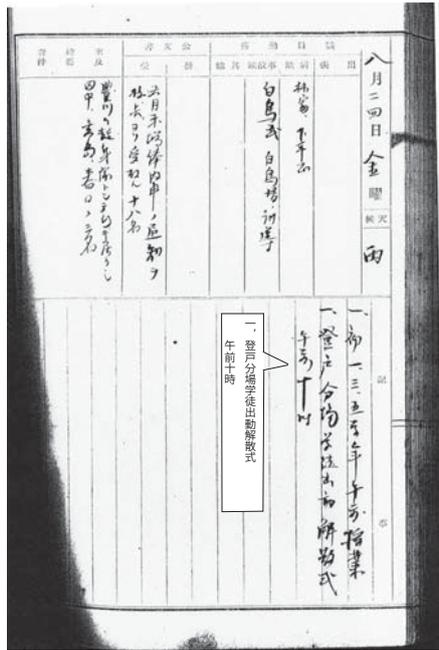
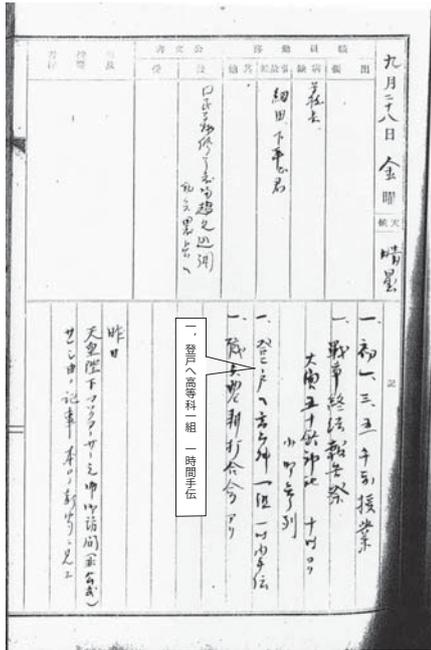
中沢小学校校庭採取物

駒ヶ根市教育委員会 寄贈

2014年7月、中沢小学校校庭整地工事の際に採取されたもの。

かつて登戸研究所が工場、研究室として使用した同校の校庭では、研究機材を焼却して埋め、証拠隠滅作業が行われた。

採取物中の黒くすすけた実験器具らしきガラス片や炭化した物質などがこれを裏付ける。



赤穂国民学校学校日誌

駒ヶ根市立赤穂小学校提供

1945(昭和20)年8月15日以降に赤穂国民学校生徒が登戸研究所の証拠隠滅作業に動員されたことがわかる。10月には進駐軍の接収について、また1946年3月には登戸研究所が学校を引き上げたことについて記載が見られる。

6 ある雇員の1945年 — 8月15日以降 —

— 復員した原島兼房氏

第2章の日章旗を送られた原島兼房氏は、元登戸研究所勤務員でありながら1945年2月に召集され、幹部候補生教育を受け、伍長に昇進したところで終戦を迎えました。そして9月16日に解放され、復員します。召集前と復員後ではその心の内にはどのような変化があったのでしょうか。8月15日を挟んでの思いがこのアルバムには綴られています。



「涛声ニ暗黒ノ夢破レ万里ニ暖眼を上げハ焔々タル社会ノ
激流ハ指シテ長ク如ク其ノ止ム処ヲ知ラズ」

大ナル希望ハ一時ニシテ破壊サル

一、国民総力戦、努力空しくして遂に破れり
「国破れて山河あり」軍隊生活■僅か七ヶ月、
ヒツムの涙に暮れる……
軍閥専横の時代はさり、民主の掛声は高々と、
国土建設再建へと暴進「篇進か」す
(二〇、九、一六)記

一、大東亜戦争も正に四年、米英を敵に昭和拾六年十二月
八日、戦宣告の天命を拜し
我等若人は決然と立って国土防衛大東亜永遠
の平和確立の為、出陣のやむなきに至つた
日の丸の旗に血書の文字も勇々しく、出陣最後
の思ひ出……
(二〇、二、一六)記

一、大東亜戦争も正に四年、米英を敵に昭和拾六年十二月八日、戦宣告の天命を拜し我等若人は決然と立って国土防衛大東亜永遠の平和確立の為、出陣のやむなきに至つた日の丸の旗に血書の文字も勇々しく、出陣最後の思ひ出…… (二〇、二、一六)記

一、国民総力戦、努力空しくして遂に破れり「国破れて山河あり」軍隊生活■僅か七ヶ月、ヒツムの涙に暮れる……軍閥専横の時代はさり、民主の掛声は高々と、国土建設再建へと暴進「篇進か」す (二〇、九、一六)記

大ナル希望ハ一時ニシテ破壊サル

「涛声ニ暗黒ノ夢破レ万里ニ暖眼ヲ上レハ焔々タル社会ノ激流ハ指シテ長ク如ク其ノ止ム処ヲ知ラズ」

※1 第2章の日章旗を指す。
※2 書き損じか。
※3 大いに見る、の意を持つ字。読みは「カン」。(大漢和辞典より)